

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [26100] 抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体
(抗MuSK抗体)

受託開始日

- 平成26年4月1日(火)

抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体(抗MuSK抗体)

重症筋無力症(MG)は手足を始めとした全身の筋力の低下や眼瞼の下垂、複視などを主訴とする自己免疫疾患です。筋肉を使っているとだんだん筋力が低下するのが特徴で、日本では2006年の全国調査によると、有病率は人口10万人あたり11.8人、患者数は約1万5千人とされています。

MGは神経筋接合部の筋肉側に存在するアセチルコリンレセプターが自己抗体によって障がいを受けることにより発症し、多くの症例(80~85%)でアセチルコリンレセプター(AChR)抗体の陽性が認められますが、陰性の患者も存在するため、MGはAChR陽性(SPMG)と陰性(SNMG)の二つに分類されています。

2001年にドイツのHochらが筋特異的受容体型チロシンキナーゼ(MuSK)に対する自己抗体について発表しました。抗MuSK抗体はSNMG患者の約40~70%(MG全体では数%)に陽性が認められるとされています。また、MGの重症度を表すMGFA分類では重症度が増すほど抗MuSK抗体の陽性率が高くなるという報告があり、抗MuSK抗体陽性例では嚥下障がいや呼吸困難などの重症症例が多いといわれています。

SPMGとSNMGでは治療法も異なるため、本検査を行うことは治療方針を立てるために重要とされています。

検査要項

項目コード	26100
検査項目名	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体 (抗MuSK抗体)
検体量/保存方法	血清 0.3mL / 凍結
検査方法	RIA
基準値	0.02nmol/L 未満
所要日数	3~9日
検査実施料	1,000点* ¹ ([D014] 自己抗体検査 [33] 抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体)* ²
判断料	144点(免疫学的検査判断料)
備考	*1: 重症筋無力症の診断(治療効果判定を除く)を目的として測定した場合に算定できます。 「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体」と「抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定できます。 *2: 実施料区分は平成26年4月1日以降に適用される新区分です。

参考文献

本村政勝, 他: 医学と薬学, 70(2), 421~428, 2013.

Hoch, W et al: Nature Medicine, 7(3), 365~368, 2001.